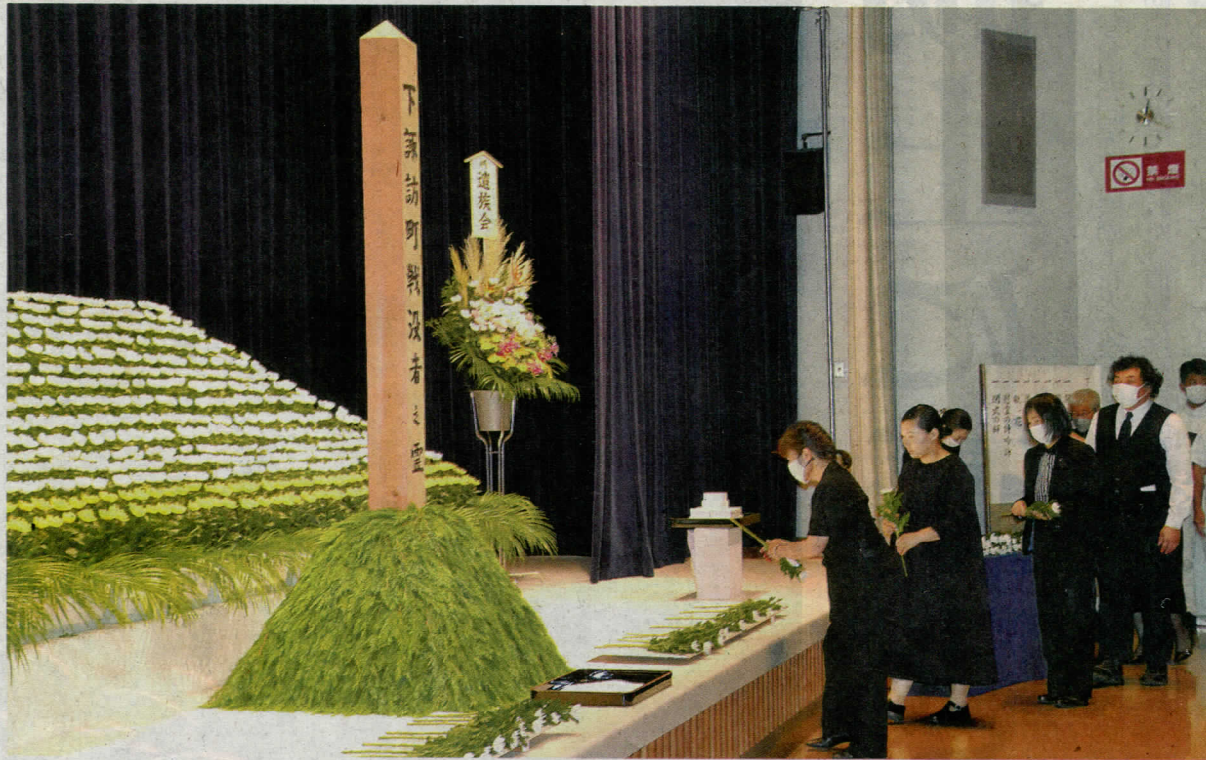


不戦と平和への誓い新たに

下諏訪町
戦没者追悼式

町出身498柱の冥福祈る



1945年の終戦から78年を迎えた15日、下諏訪町は戦没者追悼式を下諏訪総合文化センターで開いた。戦没者遺族をはじめ、町や各地区の関係者ら約90人が参列。日清戦争から太平洋戦争までの間に戦火に散った同町出身者498柱の冥福を願ひ、不戦と恒久平和への誓いを新たにしました。

(後藤八十晴)

式典では黙とうの後、参列者がステージに設けられた供養塔と祭壇に献花し、静かに手を合わせた。宮坂徹町長は式辞で「祖国や家族を思いながら戦場に倒れ、異郷の地で亡くなった戦没者の冥福を祈り、遺族に敬意を表したい。私たちの平和の日は数多くの戦没者の礎の上にある。恒久平和の実現に向け、平和の尊さを未来の世代に語り継いでいく」と決意を述べた。

下諏訪町遺族会の小口泰弘会長(70)は父親の出征当身を振り返りながら「祖国の平和と安泰を願ひ、命を国のためにささげたことを思うと、深い悲しみと痛恨に堪えない。ウクライナを見るように平穏な暮らしは突如として覆される。二度と戦没者遺族を出さないために、平和の尊さを語り継いでいきたい」と話した。

式典の前には同町教育委員会の「平和教育体験研修」で広島市を訪れた町内の中学生8人が、研修の成果を発表した。

↑追悼式で戦没者の冥福を祈り献花する参列者